



後期が始まり一か月がたちました。今月は進路講座、1月には短期インターンシップが控えており、就労について考える大切な行事が続きます。これらの進路行事をきっかけに、身だしなみ、時間の意識、挨拶、返事、言葉遣い、態度などの基本的な事がどのくらいできているかももう一度見直し、ぜひ前向きな姿勢で取り組んでもらいたいと思います。

今回の進路通信では、7月末の保護者対象企業見学会にて保護者様から頂いたアンケートのご質問やお悩み、ご相談に対しての回答を掲載します。

1年生 保護者対象企業見学会 Q&A



ご質問	回答
<p>①子供たちが多くの会社や事業所を見学する機会を設けて欲しい。</p> <p>②一度で良いので希望する職種の見学や会社の方の話を聞ける機会があると有難い。</p>	<p>本校は一学年100人規模の学校です。個々の希望に合わせての見学は難しい実情がございますことをご承知おきください。学校の進路行事として、1年生の7月に職場見学と11月に進路講座を設定しております。進路講座では様々な職種で活躍する卒業生の話を聞いたり、働いている姿を動画で観たりする機会がございます。</p>
<p>③生徒本人が企業を見学し、多くの選択肢から就職先の希望を決めていくことになるのでしょうか。今後どのように希望先を定めていくのでしょうか。</p>	<p>2年生インターンシップと3年生現場実習は、事前に、本人・保護者から「職種」の希望と通勤可能時間やその他配慮事項等を進路希望調査用紙で提出していただき、面談にて希望の確認をした後、企業の選定に入ります。「企業名」で希望を取るわけではないことをご承知おきください。個別面談においても興味のある仕事や内容等について、学校にお伝えください。</p> <p>3年生の現場実習は、翌年度4月の採用計画がある企業で実施します。実習後の企業からの評価、本人のその企業への就労の意思などを面談にて確認し、9月16日の採用選考解禁日以降に採用選考に進み、内定を得る流れとなります。内定のタイミングは企業のスケジュール等によって様々で、年明けの1～3月になることも多くあります。</p> <p>進路指導ハンドブックP13～「Ⅲ 各学年の学習」もあわせてご確認ください。</p>
<p>④希望が通れば複数の企業を見学できると知らず、1社しか見学しなかった。次回は分かりやすく説明をして欲しい。</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。ご案内の方法を次回は工夫したいと思います。</p>
<p>⑤今回見学した企業以外を知る場や資料などを頂きたい。</p>	<p>具体的な企業名をお伝えいただければ、資料等ご用意できる場合もあります。担任までご連絡ください。また、各企業のHPなどもご覧いただければと思います。</p>

裏面もあります

<p>⑥就職後の離職の状況、再就職の状況を可能な範囲で知りたい。</p>	<p>卒業生の1年以内の離職率については、例年若干名(5%前後)です。就労から2～3年の離職率については、ここ数年の調査では20%前後です。再就職を含めると3年目までの卒業生の定職率は91.3%です。</p> <p>離職の理由は様々ですが、就労継続年数が長い方については「よりやりがいのある仕事への転職」といったキャリアアップを理由とした離職が多いのが特徴的です。就労1年以内の離職については、「生活リズムの乱れや体調不良による欠勤・遅刻・早退の改善が困難な状況」「就労意識・意欲の課題(自己判断で仕事をしてしまう、さぼりとみなされる行為がある、報連相を怠る)」など、本人の就労準備性が整っていなかったことが原因とみられるものもあるため、在学中から仕事に通うための生活リズムを整え、トライアル実習やコースの授業を通して仕事に必要な基本的なビジネスマナーを身に付けていくことが大切です。また、「余暇の楽しみをもつ」「ストレス解消方法を1つでも多く見つける」など、ストレスとの付き合い方を身に付けていくことも就労の安定に繋がります。</p> <p>本校の実習を通して就労した企業に関しては、卒業3年間は就労支援センターと連携して定着支援を行います。再就職やその後の支援は就労支援センターが主で行います。</p>
<p>⑦特例子会社を親としては勧めたい。特例子会社を希望する方は多いでしょうか。</p>	<p>特例子会社とは、障害のある方の雇用の促進及び安定を図るためにつくられた会社です。進路指導ハンドブック P31～「5(3)特例子会社」もあわせてご確認ください。</p> <p>インターシップや実習の希望は「職種」で取っており、「企業名」で希望を取るわけではないことをご承知おきください(上記③の回答をご覧ください)。特例子会社のみならず、どの企業にも必要な配慮を伝えながら実習を行い、就労につなげております。</p>
<p>⑧見学した企業で、卒業生の中で自分の所属のコースとは違う職種に進んだ方がいた。その年の求人にもよるので、思い通りの就職は難しいのだと不安に思った。</p>	<p>インターシップや現場実習では、所属コースの職種に限定せず、適性(得意なこと)を活かし、意欲的に働ける職種を希望できるようにしています。また、5つのコースでは職種を問わず就労に必要な基本的な力を共通して学んでいます。学校での所属コースとは異なる仕事内容(職種)の企業に就労して活躍している卒業生もたくさんいます。</p>
<p>⑨今回見学したある会社では元々の仕事の他、本人の希望と能力があれば他の職種への橋渡しをしてくださるようです。こうした企業は増えているのでしょうか。またそのためには何をすれば良いのでしょうか。</p>	<p>業務内容があまり変化しない企業もあれば、業務内容が変化する企業もごいます。いずれにしても与えられた仕事をしっかり行い就労先から信頼を得ることが大切です。その上で興味関心を広げ、キャリアアップしようとする意欲は大切です。そのためには、在学中から様々なことに挑戦するようにして頂きたいと思えます。</p>
<p>⑩子供の希望進路と親の望む進路が異なる場合、学校はどちらの意見を優先するでしょうか。</p>	<p>働くのは本人ですので本人の働きたい気持ち、その職場環境や職務への適性が大事です。それを踏まえ、1年生のうちから、ご家庭でお子様の興味のある職種・仕事内容などについて話し合っておくことをお勧めします。今後コース希望や希望職種について学校で聞き取りを行いますので、それらについてご家庭で時間をかけて話し合い、お子様のご希望を応援して頂ければと思います。</p>

※アンケートへのご協力ありがとうございました。